変化を楽しもう。

小柳建設株式会社
Oyanagi Construction Inc.

変化を楽しもう。

代表取締役社長
小柳 卓蔵 / おやなぎ たくぞう

1981年、新潟県生まれ。大学卒業後、金融機関に入社。
2008年、小柳建設株式会社に入社。
2014年より代表取締役社長に就任。

Message

「変化を楽しもう。」

これは私たちのコーポレートメッセージです。

私たちが共に働きたい人材は変化を恐れずチャレンジできる人。今後ますます求められる資質です。

変化が著しく、企業も人も共に進化しなければ生き残れない時代の中で、自分から変化して周りも変化させる。そして、建設業をリードする存在になる。そんな決意が込められています。このメッセージは創業時から脈々と受け継がれてきたものです。

バブル期には他社に先駆けローコストマンション事業や誰もやりたがらなかった環境保全事業など活躍の幅を広げてきました。それが今の小柳建設を支えています。

そして今、社員はもちろん、建設業界で働く人を楽にし、もっと魅力のある産業にするため、働き方そのものの見直しを行っています。変化を恐れず楽しめる人、そんなあなたにお会いできるのを楽しみにしています。

TOPICS

変化する小柳建設

オフィスによる変化

「変化を楽しむオフィス」で進む働き方の変化

2021年1月、創業の地である加茂市に新しい加茂本店が竣工を迎えました。

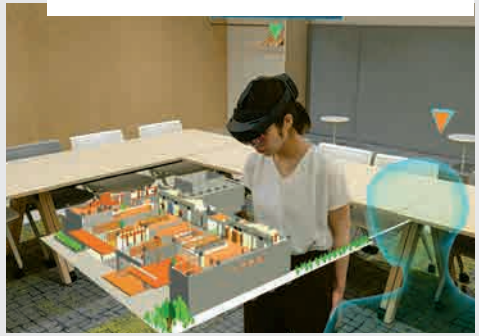
コンセプトは「変化を楽しむオフィス」。

毎日の働く場所や席は、仕事の内容やその日のシーンによって、自由に選ぶことができます。チームですぐに集まることのできるスペースや、上司との面談ができる「1on1ブース」を設置するなど、チーム内のコミュニケーションを活性化するスペースも備えました。また、各チームの成績をリアルタイムで確認できるデジタルサイネージを導入するなど、全社員が経営者意識を持つような環境づくりに努めています。自分たちで自分の働き方を考える。そんなオフィスで一緒に働きませんか？

若い経営陣による変化

社員の声を反映する、スピード感のある会社へ

2019年に経営陣を一新。経営陣の平均年齢は41歳（2019年当時）と若く、よりスピード感のある仕事、一人ひとりが活躍できる職場環境の整備が進んでいます。新潟県内総合建設業2例目となる”くるみん”の認定をいただいたことが一つの事例です。その背景には、アメーバ経営の導入があります。アメーバと呼ばれる独立採算で運営するチームをつくり、各チームの成果を数字で示すことにより、各チームが利益確保に取り組むようになりました。その結果、残業時間削減、有休取得率向上、男性の育休取得率向上が実現しました。



DXによる変化

「働く人たちを楽にしたい」最先端技術で建設業界の新たな扉を開く

「働く人たちを楽にしたい」との思いから始まったプロジェクトHolostruction。建造物の3Dモデルや写真・設計図などのデータをMR（複合現実）技術を使い、実際の空間に現場の3次元モデルやドキュメントデータをホログラフィックとして投影するアプリケーションです。当社と日本マイクロソフト株式会社で共同開発し、バージョンアップを進めています。Holostructionではこれまで各人の頭の中でイメージしながら共有していたことを、遠隔地を含む複数人が同時にイメージを可視化・共有化できるようにしたことで、理解度を向上させることができ、生産性の向上につなげることができます。

国土交通省のPRISMでも採択された技術で、現場での導入も進んでいます。

また、Holostruction以外にも、フルクラウド化やMicrosoft365の導入による「いつでも、どこでも」働ける環境の構築や、現場の状況を共有できるアプリケーションAll-sighteの自社開発など、建設業界で働く人を楽にするため、また、DXによる変化を楽しみながら、日々活動しています。

Senior's voice.01

土木事業

先輩社員紹介

CASE.01

安心・安全を支える地域づくり
建設現場 at 大河津分水路

PROLOGUE

河川、橋、道路、トンネル、給排水施設などの公共工事を通して、地域の安全と豊かな暮らしを支える土木事業。最先端技術を駆使し、水害や震災の復旧・復興、さらにそれを未然に防ぐ各種工事を担っています。大河津分水路におけるこの現場も、山地を掘削し、河口部を拡幅することで洪水を防ぐ目的があります。

STORY

スケールの大きな仕事、社会貢献できる喜び

青野がこの事業で現場代理人デビューした数カ月後、台風19号が猛威を振るい、大河津分水路は過去最高水位を記録しました。そのことでクローズアップされたのが、広大な越後平野を被害から守った分水路の重要性です。「今回の出来事で、自分の仕事が世の中に必要とされ、役立っていることを改めて知りました。大きなやりがいを感じています」。社会貢献はもとより、スケールの大きな仕事を描いた通りに実現できるのも醍醐味の一つ。「大手企業と違い、私のような若手でも現場代理人のチャンスを与えてくれる。成長につながる良い経験を積んでいると思います」と青野。持ち前のチャレンジマインドを発揮して充実した毎日を送っています。その青野を、サポート役の梅川はこう評します。「真面目すぎるほど真面目ですね。もっと場数を踏むと力みが抜け、柔軟性が増すと思いますよ」。その梅川こそ、青野にとってはお手本のような存在。「先を読む力がすごい。私の考えの二手も三手も先を行き、最良の対策を講じる姿にいつも学んでいます」と刺激をモチベーションに換えています。

Holostructionでイメージを共有

現場はIT技術をふんだんに取り入れています。「お客様との打ち合わせでは、Holostructionの3Dホログラムを用いてイメージを共有しています。二次元では分からなかった問題点を発見できることもあるため、実に有効ですね」。また3Dなら、新入社員からベテランまで同じものを見ながらのディスカッションが可能。後輩の育成にも注力する青野にとって、ITは大きな助けとなっているようです。
目標は、より多くの現場に挑戦すること。「今は掘削メインですが、様々な工種を経験しながらHolostructionの活用を進め、新しい施工管理の形を広めていきたいですね」と、青野は自らの使命をしっかりと受け止めています。

左/2016年入社

土木工事部 / 青野 鉄平 Teppei Aono
(新潟大学 農学部 生産環境科学科卒)

大学では農業土木や砂防を学び、何より当社の理念に共感し入社。この大河津分水路の工事が、工程、品質、出来形、安全、原価などを管理する現場代理人としてのデビューに。

右/1998年入社

土木工事部 / 梅川 大輔 Daisuke Umekawa
(長岡造形大学 造形学部 環境デザイン学科卒)

経験豊富なリーダー。この仕事の面白みは、自分の裁量で様々なことを決断できる点だとし、「思い通りにいかないことも楽しい」と語る大ベテラン。

Senior's voice.02

建築事業

先輩社員紹介

CASE.02

鉄骨造2階建の移転改築工事 建設現場 at つくし保育園

PROLOGUE

大型建設物件から一般住宅まで広く対応。デザイン・設計・施工を一貫して手がける「デザインビルド方式」「設計施工一括方式」により様々な要望に応えています。これは、2020年11月にスタートした「つくし保育園移転改築工事」。保育エリアのほかに、子育て支援エリア、調理室エリアを併設しています。

STORY

レベルアップに向けて品質管理に初挑戦

広井は品質管理業務のコンクリートを担当。施工の段取りや計画に始まり、決められたコンクリートを正しく使っているか、品質不良が起きていないかなどの確認、管理を行っています。「印象に残っているのは基礎コンクリートの打設ですね。初挑戦だったので不安や緊張もマックスに。もっと良い配置があったのではないか、準備段階でこうすべきだった、という反省点も多々あります」。現場所長を務める渡邉は、そんな彼をこう評します。「ちゃんと自分で考えることのできる人。ただし一人で抱え込み、報告、連絡、相談が滞るところは弱点かもしれません。また人柄からか、協力会社に対して優しすぎる面も。必要に応じて時には厳しく、こちらの要望をきっちり伝えられるようになると、さらに成長できると思いますよ」。

休憩時間にはプライベートな話題でも楽しませてくれる渡邉は、広井にとって頼りになる憧れの存在。「仕事の話も分かりやすいんです。なぜそういう収まりになるのか、理由をしっかりと提示したうえでアドバイスをくださるので参考になります」。自らも新入社員教育に携わる今、渡邉から学んだことは今後も大いに役立ちそうです。

マニュアルのない難しさと面白み

この仕事の面白みは「平面の設計図が3Dで起き上がっていくのを順番に見ることができる点」と広井は言います。「同じ現場は二つとありません。マニュアル化される仕事ではないので常に臨機応変であることを求められる。大変ではありますが、それこそがやりがいです」。建物ができあがったときの達成感は、キャリアの差を超えて、広井と渡邉に共通する喜びの瞬間です。

広井が考える渡邉の尊敬すべき点は、施工知識の深さと、それをベースにした職人との円滑なコミュニケーション。「必要な資格を取得しながら、現場をまとめられる人材に」と目標を定める広井は、その姿をお手本にしながら着実に成長し続けています。

左/2019年入社

建築工事部 / 広井 夢輝 Yumeki Hiroi
(日本大学 工学部 建築学科卒)

大学で建築設計を学ぶ。会社説明会で最新技術×建設業の可能性について話す社長に共鳴して当社へ。現在は建築工事の管理を担当。加茂本店の建設にも携わった。

右/1997年入社

建築工事部 / 渡邉 重樹 Shigeki Watanabe
(中央工学校 建築設計科卒)

所長として建築現場を運営。部下や協力会社の陣頭指揮をとって、建設現場全体の管理を行う。またリーダーとして、班員とその現場をバックアップする役割も。

Senior's voice.03

浚渫事業

先輩社員紹介

CASE.03

内水面の環境向上に貢献する主要事業 浚渫現場 at 鳥屋野潟

PROLOGUE

「人が汚した川を、人の手によって美しく再生する」との思いで、1987年より始めた浚渫事業。数多くの川や湖沼の水質改善、悪臭除去、河川の流下能力の向上や、ダムの貯水量回復による治水対策にも積極的に取り組んでいます。鳥屋野潟の現場では、堆積する土砂を取り除き、水の流れを良くすることで水質浄化を図ることを目的としています。

STORY

一人立ちして最初の現場で奮闘中！

県外の大学で建築を学んでいた秋山ですが、ふと目にした浚渫の写真に心惹かれ、当社を志望しました。「最初は“浚渫（しゅんせつ）”の読み方すら分かりませんでしたが、県内で馴染みのある鳥屋野潟や福島潟などで工事を行っていると知り、関わりを感じました」と振り返ります。そして今、自身がその鳥屋野潟の浚渫に携わることに。しかもこれまでのような先輩のサポート役ではなく、初めて一人で現場代理人を担うという大きなステップを迎えたのです。潟に設置した作業船で行われる工事の進捗を管理し、作業者とコミュニケーションを図りながら、安全な工事の進行に努める日々。「お客様との打ち合わせなど、重要な業務に一人で臨むのも初めてで、色々経験できています。一つひとつ形にすることで面白みを実感しました。ちょうど先日検査を終え、ホッとしているところです」と充足感をにじませます。

自ら考えることの大切さを学んでいます

そんな秋山を見守るのが、同世代ながら豊かな経験を持つ所長の鶴巻です。「一所懸命なのが秋山さんの良いところ。分からないことは、ちゃんと調べた上で『これで良いですか』『ここが分かりません』と具体的な質問を投げかけてきます。自分で考え、まず一度トライする。そういう意欲的なところには感心しますね」とその姿勢を評価します。一方、秋山も鶴巻の思いをしかと受け止めていました。「書類作成について質問したら、過去の資料を手本として提示してくれました。鶴巻さんはいつも的確なヒントと共に、答えにたどり着くまでの考える余地を与えてくれます。だからこそ力になるんだよ、と」。浚渫は文字通り水面下の仕事だが、苦労した現場ほど後々まで記憶に残る。そんなメッセージも、先輩から後輩へと受け継がれています。

左/2009年入社

専門工事部 / 鶴巻 裕基 Yuki Tsurumaki
（新潟県央工業高校 建設工学科卒）

工事着手への準備から工程管理、成果品の作成などを行う現場代理人。主に浚渫工事を担当し、所長として事業独自の測量法などを社員に指導する役割も。

右/2014年入社

専門工事部 / 秋山 裕亮 Hiroaki Akiyama
（日本大学 工学部 建築学科卒）

大学の建築学科で学び、説明会で興味を持った当社へ。現在は浚渫工事の現場管理を務め、作業の段取り、発注元との連絡や調整、書類作成などを担当する。

PR部 柿本 優衣

若手社員が作る！新入社員研修

入社後の研修は、社会人の基本マナーや会社のことを学ぶプログラムが盛りだくさん！また若手社員が自身の経験を活かし新人目線のプログラムに！土木や建築の知識がなくても安心です。この研修期間に同期の絆はぐっと深まりますよ。

建築工事部 藤間 一希

社員優遇アパートで快適に社会人生活スタート！

本来40,000円の家賃が35,000円で敷金・礼金もゼロ！さらに管理費、駐車場代、Wi-Fi料金込みの社員優遇アパートで心地よく暮らしています。同じく入居している同僚と交流するのも楽しみの一つ。会社にもほど近く、とにかく便利です！

総務部 多熊 友

月に一度の面談が成長を支えてくれます。

キャリアアップシートに目標と行動計画を記入。月一の上司との面談で進捗と成果を確認します。面談を通して上司との信頼関係も生まれ、悩んでいることも包み隠さず話ができます！

専門工事部 清水 彪目

安心してスキルアップ！資格報奨金＆手当制度

必要な資格を取ると、毎月の手当と、次の資格取得に生かすための報奨金が支給。2級土木施工管理技士など数種類の資格を手にしました。資格取得により、仕事の幅も格段に広がり、それが自分の成長と楽しさにつながっています。

建築営業部 森田 佑介

IT技術の活用で外出先でもシームレスなコミュニケーション！

建設現場勤務の社員や営業等、外出の多い社員にはスマートフォンを貸与。以前は事務所に戻らなければできなかった仕事もビジネスチャットを使用して出先で情報を共有してOKをその場でもらったりと、時間も大切にできますよ！

CLOSE UP!

WORK STYLE

時代の変化に合わせた
「働きやすさ」への取り組みを紹介。

PR部 堂谷 紗希

リフレッシュ休暇を利用して海外旅行も行けちゃう？！

長期連休を取得し、普段なかなかできないことをしてもらいたいという目的の制度！私はリフレッシュ休暇を取得し、オーストラリアのケアンズへ行きました！社員の約88.4％がこの制度を利用。プライベートが充実すると仕事にも全力で打ち込めますよ！

フォロー体制

入社前から手厚くバックアップ

入社前からフォロー体制は万全です。楽しい内定者イベントを企画するのは社歴1〜3年の若手社員。リモート交流会では、先輩社員の生の声や、内定者同士の交流が図れるゲームなどを実施。共に交流を楽しんだその先輩が、それぞれのメンターとして入社後の皆さんをバックアップします！

地域活性化

地域のチャレンジャーを応援します！

加茂本店には地域のチャレンジしたい人を応援するインキュベーション施設（コワーキングスペース）があります。最近では、加茂市のカフェやベーカリーが出張カフェとして当社の施設を使ってチャレンジをしています。社員もランチに活用したりすることで午後からの仕事の活力につながったり、ドリンクを飲みながら仕事をしたりするなど社員のリフレッシュにもつながっています。

育児休業

夫婦一緒に同じ会社で働いています！

育児休業や時短勤務もしっかり整備され、スムーズな職場復帰が可能。「人事担当者が親身になって制度についてレクチャーしてくれました」「生活や経済面が安定することで日々を楽しく過ごせました」との声も。2021年6月には男性育休100％宣言（株式会社ワーク・ライフバランス社）に賛同し、男性も育児休業を取得しやすい環境づくりを目指しています。

社内報

社内報を動画で配信！

月一で社内の情報を動画で配信しています！社長のメッセージや、月内にあった出来事をニュース形式でお送りしています。現状、全従業員が毎月リアルで集まることが難しい状況の中、社内報を動画配信することで、従来のテキストベースより理解度が促進されると同時に、会社の一体感をより強固なものにすることができます。社員のベクトルを合わせる大切なツールの一つです！※新潟県ITイノベーション拠点NINNOにある、SPACELAB#SOLU（配信スタジオ）にて収録

これからの小柳建設

自分の手で創造する
未来のカタチ。

「5,000億円企業グループになろう」と、私たちは未来図を掲げました。成熟産業といわれる建設業において、いかにそれを達成するか。

答えは、多くの「経営者」を育て、グループ会社を創設していくことにあります。

地域の安全を守る誇り、社会に貢献できる喜びに加え、「自らの手で事業を動かし、社員も自分も幸せになる」という醍醐味を享受する。その環境を整えて、社員一人ひとりの成長をバックアップします。

建設業は、これからますます面白くなるはずですよ。

事業案内 Services

- 土木事業
- 建築事業
- 浚渫事業
- 舗道事業
- 埋蔵文化財支援事業
- Holostruction事業

会社概要 Company overview

社名	小柳建設株式会社 (Oyanagi Construction inc.)
本社所在地	〒955-0047 新潟県三条市東三条1-21-5
本社TEL	0256-32-0006
創業	1945年(昭和20年)11月
資本金	1億円
代表者	代表取締役社長 小柳 卓蔵
URL	https://n-oyanagi.com
グループ会社	株式会社エステートコンサルタント、 株式会社Holostruction、株式会社Wisdom Holdings

会社HP　Facebook　Instagram　YouTube

小柳建設株式会社
Oyanagi Construction Inc.